

■TCK 女王盃 (JpnIII) アラカルト (過去全 23 回の分析)

※第 1 回 (平成 10 年) から第 6 回 (平成 15 年) までは大井ダ 2,000m で実施

※第 7 回 (平成 16 年) からは大井ダ 1,800m で実施

※記録は令和 3 年 1 月 6 日時点

■ 1 番人気に推された馬は堅実

単勝 1 番人気馬は 8 勝、2 着 7 回、3 着 4 回で、3 着内率が 82.6%、単勝 2 番人気馬は 8 勝、2 着 4 回、3 着 1 回で、3 着内率が 56.5%、単勝 3 番人気馬は 2 勝、2 着 2 回、3 着 5 回で、3 着内率が 39.1%となっている。基本的には単勝 1 番人気馬が強いレースと言えそうだ。

■ 人気馬が上位を占めた年もそれなりにある

過去 23 回のうち 18 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 10 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 1 回ある。

■ 若い世代ほど優勝例が多い

馬齢別の勝利数を見ると、4 歳が 9 勝、5 歳が 8 勝、6 歳が 5 勝、7 歳が 1 勝となっている。7 歳以上馬の優勝例は、第 22 回 (平成 31 年) のビスカリアのみである。

■ レマーズガールとメーディアが“連覇”を達成

TCK 女王盃において複数回の優勝経験があるのは、第 7 回 (平成 16 年) と第 8 回 (平成 17 年) を制したレマーズガール、第 16 回 (平成 25 年) と第 17 回 (平成 26 年) を制したメーディアの 2 頭となっている。なお、いずれも 2 年連続の優勝だ。

■外国産馬は6勝

外国産馬は第5回（平成14年）のレディバロード、第7回（平成16年）ならびに第8回（平成17年）のレマーズガール、第9回（平成18年）のクラブユアハート、第14回（平成23年）のラヴェリータ、第23回（令和2年）のマドラスチェックと、5頭が延べ6勝している。

■優勝馬ならびに連対馬の7割以上はJRA所属馬

所属別成績を見ると、地方所属馬は6勝、2着7回、3着11回、JRA所属馬は17勝、2着16回、3着12回となっている。ちなみに、優勝を果たした地方所属馬は第15回（平成24年）のハルサンサンが最後だ。

■騎手別の歴代最多勝記録は「2」

騎手別の勝利数を見ると、2勝の今野忠成騎手、武豊騎手、戸崎圭太騎手、濱中俊騎手、森泰斗がトップタイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録も「2」

調教師別の勝利数を見ると、2勝の齋藤誠調教師、笹田和秀調教師、山内研二調教師、湯浅三郎調教師がトップタイとなっている。

■4枠と15番は未勝利

枠番別勝利数を見ると、7枠（7勝）が単独トップ。5枠と6枠（各4勝）が2位タイ、2枠と8枠（各3勝）が4位タイとなっている。なお、未勝利の枠番は4枠だけだ。また、馬番別勝利数を見ると、8番と12番（各3勝）がトップタイ。2番、7番、10番、14番（各2勝）が3位タイとなっている。ちなみに、未勝利の馬番は15番だけである。